



# Evaluability

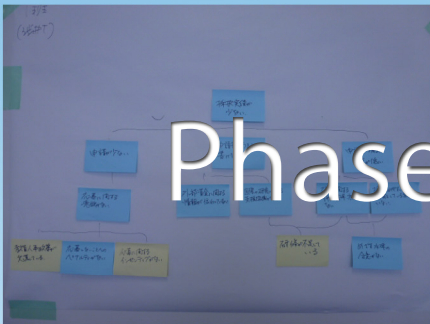


独立行政法人 NIAD-UE  
大学評価・学位授与機構



# Assessment

平成25年  
2月8日(金)  
10:30-16:00  
[10:00開場]



# Phase 2

学術総合センター  
(東京都千代田区一ツ橋2-1-2)  
大学評価・学位授与機構  
竹橋オフィス1112会議室

## 自己評価能力を高めるための 目的・計画と指標の作り方 に関する研修会

定員：50名\* 参加費：無料

想定する参加者：内部質保証や教育改善、認証評価などの企画及び評価業務に従事されている方や予定のある方、関係する管理職の方

\* 定員になり次第、締め切らせていただきます。必要に応じて60名まで調整いたします。

### <申し込み方法>

大学評価・学位授与機構webサイトの「シンポジウム・セミナー」カテゴリにあるこの研修会のページの申し込みフォームから必要事項をお送りください（URLは、裏面最下部をご覧ください）。

## 研修会のねらい

大学評価・学位授与機構では、大学の内部質保証力の向上を支援するためのツールの開発を行っております。内部質保証を機能させるために不可欠な条件として、PDCAを機能させることが挙げられます。そのためには、目標や計画を適切に立てることが重要であり、それができなければ、評価や改善もうまく図れません。それらを解決するために開発を行ってきたのがこのツールです。

今年（2012年）9月には、神戸大学で開催された大学評価担当者集会の場で第1回目の研修会を開催させていただきました。その際には、時間の都合もあり、ツールの4つのステップのうち、ステップ1の「課題・問題の分析」までを行いました。今回、第2回目の研修会として、ステップ2「目的の整理、計画の作り方」を用意させていただきました。なお、ステップ1につきましても、前回参加されたみなさんの貴重なご意見などをもとに、教材の大幅な見直しを行いましたので、前回参加された方も、初めての方でもご参加いただける研修会となっております。

表1：大学の内部質保証力向上支援ツールの各段階と獲得することが期待されるスキル

	ツールの内容	獲得することが期待されるスキル
<b>ステップ1</b> [おさらいを実施]	関係者（ステイクホルダー）の把握、課題・問題の分析	○自らの大学の現状と課題を体系的に整理する思考方法やスキル ○教育の質向上という視点で、大学の諸活動の中から課題を発見し、その周辺の因果関係の整理を行うことができるスキル
<b>ステップ2</b> [今回のテーマ]	目的の整理、計画の作り方	○目的を体系立てて整理する思考方法、目的の体系図から計画アプローチを見出すスキル ○因果関係を逆にたどることで、課題解決のためのアプローチを考えることができるスキル
<b>ステップ3</b> [次回のテーマ]	指標デザインとデータの整理	○前のステップで考案した課題解決のためのアプローチ（即ち、課題を解決する、という目的に沿った計画）に対して、適切な指標を提案するスキル
<b>ステップ4</b> [ツール構築中]	効果的・効率的な評価	○評価の目的を明確にし、協力体制を整えること、評価結果を有効に活用するためのマインドセット

## タイムテーブルと研修内容

主催者挨拶 10:30～10:40

講義 10:40～12:00

○講義では、ツールの内容を詳しく説明し、午後、実際に演習ができる程度の理解を目指します。

今回の研修会はステップ2の「目的の整理、計画の作り方」を中心に行いますが、ステップ1の「課題や問題の分析」のおさらいも行いますので、講義内容はその2つが中心となります。ただし、ステップ3の「指標デザインとデータの整理」にも触れます。

演習 13:00～14:40

○演習では、班ごとに架空の大学の事例をもとに課題を整理、分析し、解決に向けた計画を考えます。

（なお、演習課題は9月に実施したものと異なりますので9月に参加された方もどうぞご参加ください。）

・班分けについては、運営をスムーズに進めるために事務局で行います。

・各班にはこのツール開発を行った研究会メンバーがファシリテータとして参加させていただきます。

また、応募状況によっては、第1回の研修会に参加された方にもファシリテータをお願いすることもあります。

・演習結果は班ごとに発表していただきます。

発表と議論、まとめ 14:50～16:00

○各班での演習結果を報告していただき、それを議論することで、ツールの運用のコツや留意点、限界などについて理解を深めます。

表2：各ステップにおける研修内容

（今回の講義はステップ1～3、演習はステップ1と2の内容で実施します）

### 「ステップ1：関係者の把握、課題・問題の分析」

・関係者を把握し、大学における諸活動から課題を発見します。課題を複数挙げ、その課題の原因を考えつつ、課題（原因→結果のペア）をグループ化していきます。

・途中で、中心的な課題が見えてきますので、それを中心に各グループに関連づけていきます。（中心になる課題をどう設定するかは、グループのメンバーの考え方や、組織の置かれた環境により異なります。）

◇これらの作業によって、各課題の因果関係がはっきりするわけです。

### 「ステップ2：目的の整理、計画の作り方」

・ステップ1で分析した「原因→結果」を「手段→目的」とリバーシさせることで「こういう原因でこういう課題が発生している」ということが「ここをやれば、この課題が解決できる」という図になります。この図を目的系図といいます。

・目的系図は、いくつかの課題をひとまとまりにし、グループ化したわけですが、課題が適切に関連づけられた目的系図があれば、「解決に向けた計画」が見出しやすくなります。

◇課題を原因と結果の因果関係で整理することは、解決と改善のアプローチを見出すための作業でもあるのです。

### 「ステップ3：指標デザインとデータの整理」

・改善計画を実施する際の指標を考えます。課題は「目的→手段」という単位で最初に整理をしているので、それぞれに指標を考えていけばよいのです。

◇指標が見つければ、あとはその指標が現在どうなっていて、それをどうしたいのか、ということで改善計画を現実化し、それに沿って行動します。ときおり指標を用いて進行管理するのが評価担当者の責務となると思われます。

### <問い合わせ先>

大学評価・学位授与機構 評価事業部 評価企画課 企画第2係

TEL：042-307-1615 / FAX：042-307-1622 E-mail：hyokikaku2@niad.ac.jp

[http://www.niad.ac.jp/n\\_kenkyukai/1212851\\_1207.html](http://www.niad.ac.jp/n_kenkyukai/1212851_1207.html)